

図2-① 65歳男性の平均自立期間の推移(千葉県)

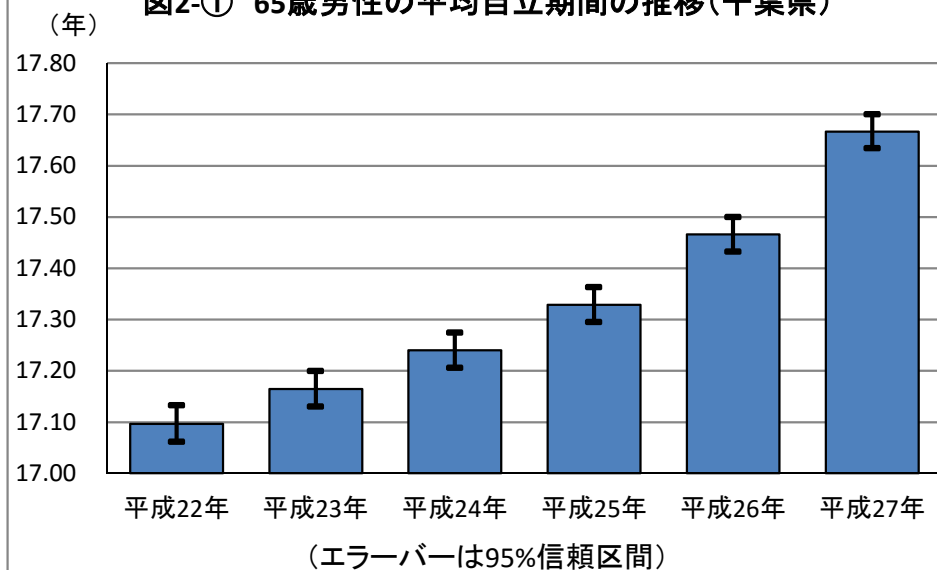


図2-② 75歳男性の平均自立期間の推移(千葉県)

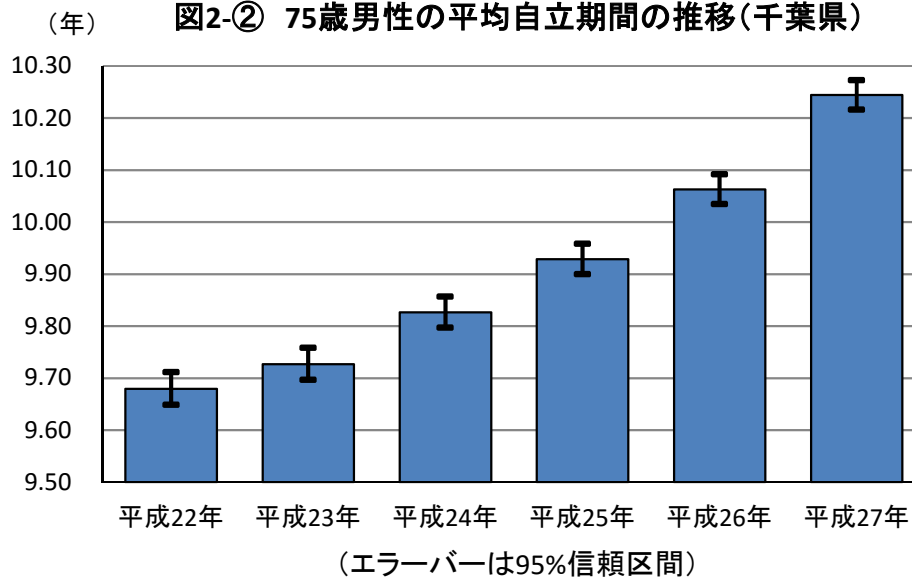


図3-① 65歳男性の平均要介護期間の推移(千葉県)

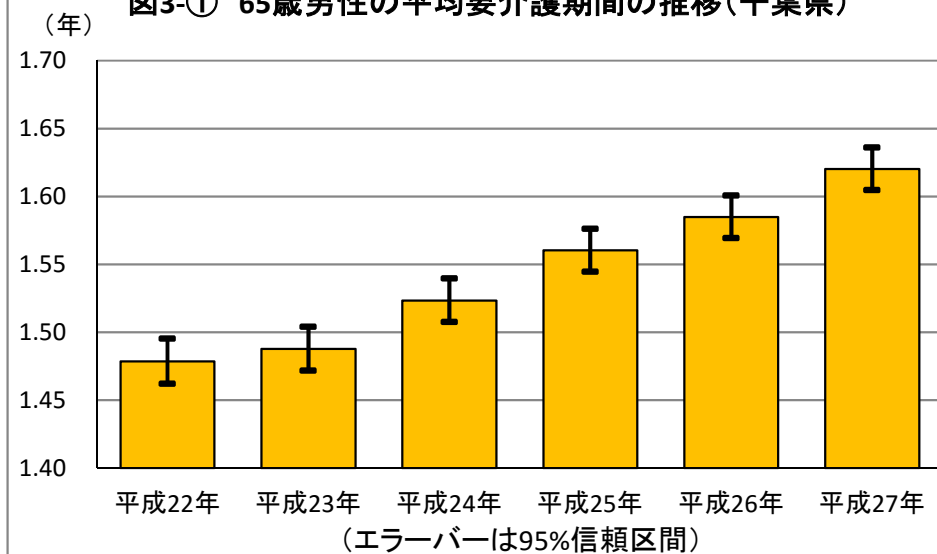


図3-② 75歳男性の平均要介護期間の推移(千葉県)

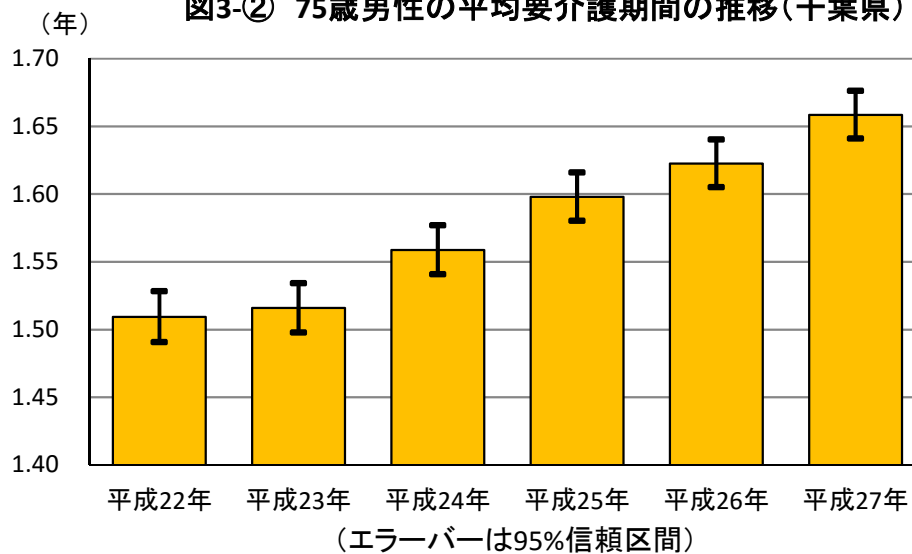


図2-③ 65歳女性の平均自立期間の推移(千葉県)

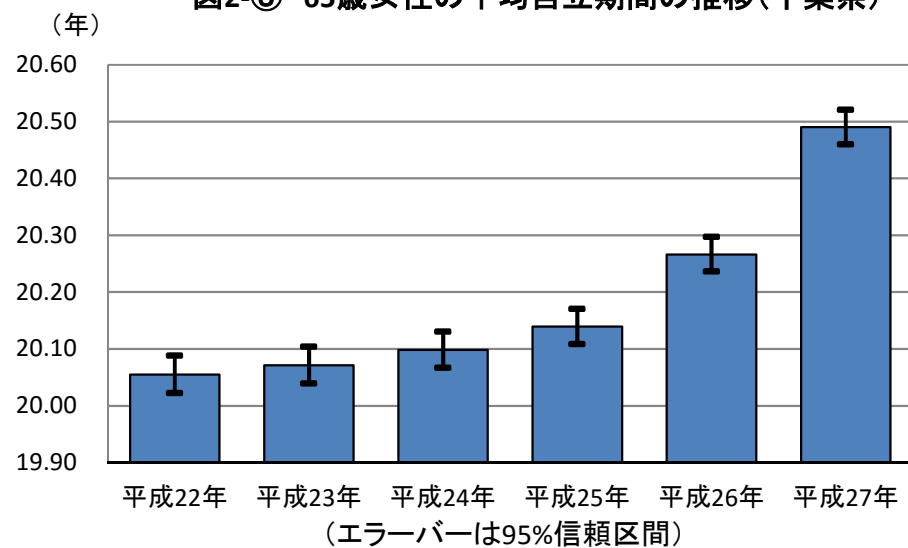


図2-④ 75歳女性の平均自立期間の推移(千葉県)

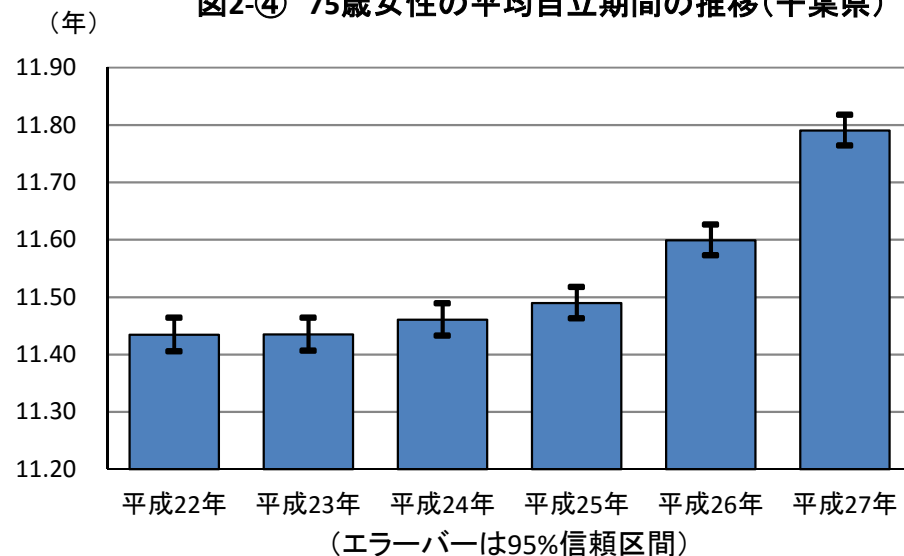


図3-③ 65歳女性の平均要介護期間の推移(千葉県)

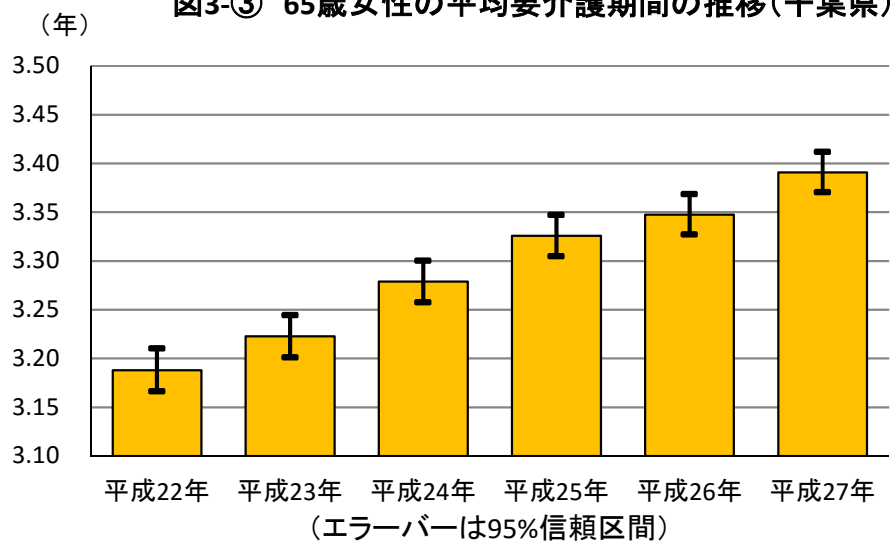


図3-④ 75歳女性の平均要介護期間の推移(千葉県)

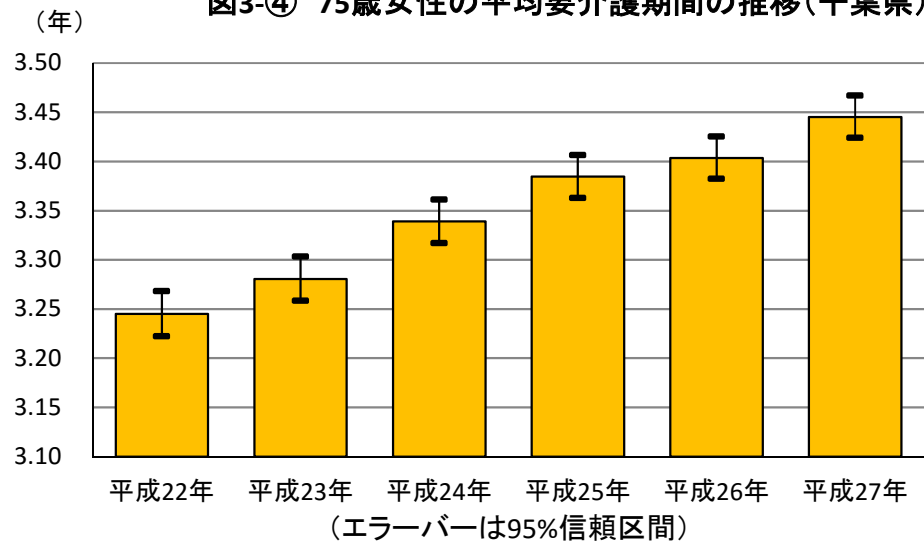


図4-① 平成22年と27年の平均自立期間と平均要介護期間(65歳)

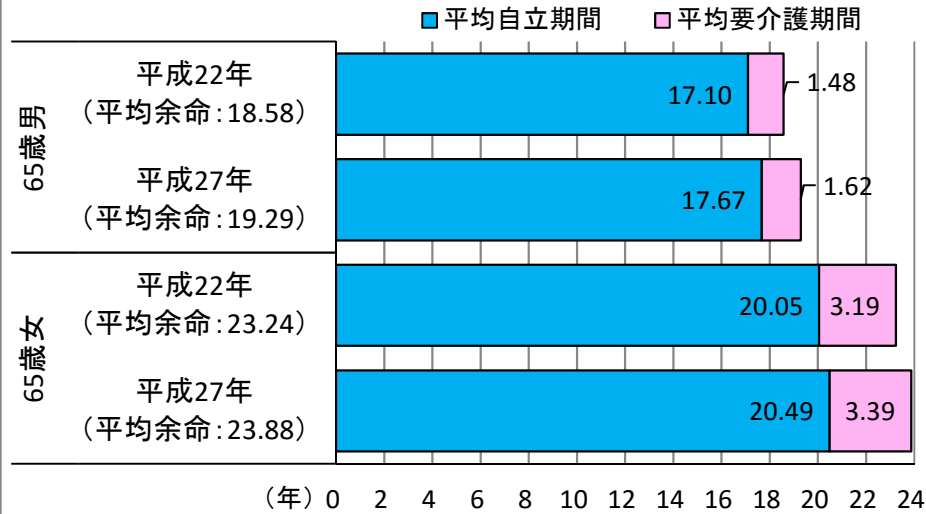


図4-② 平成22年と27年の平均自立期間と平均要介護期間(75歳)

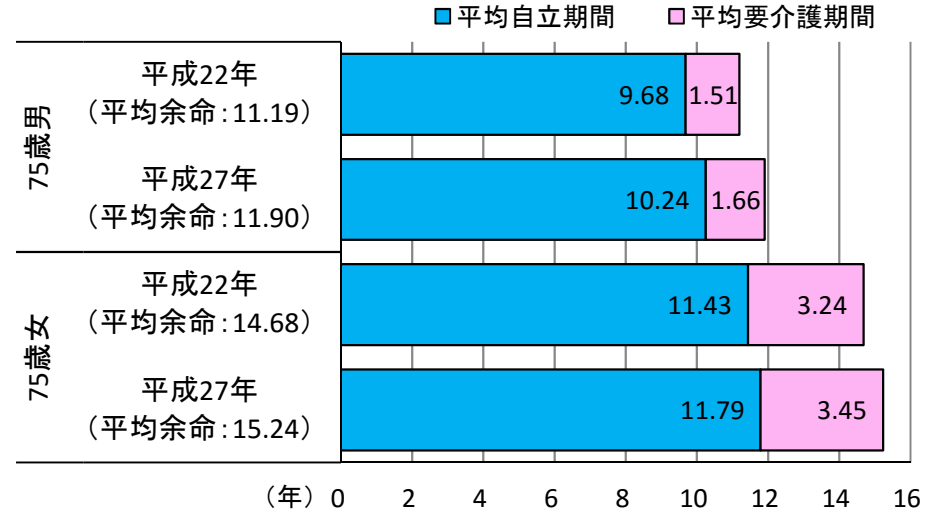


図5 平成22年～27年の平均自立期間と平均要介護期間の伸び

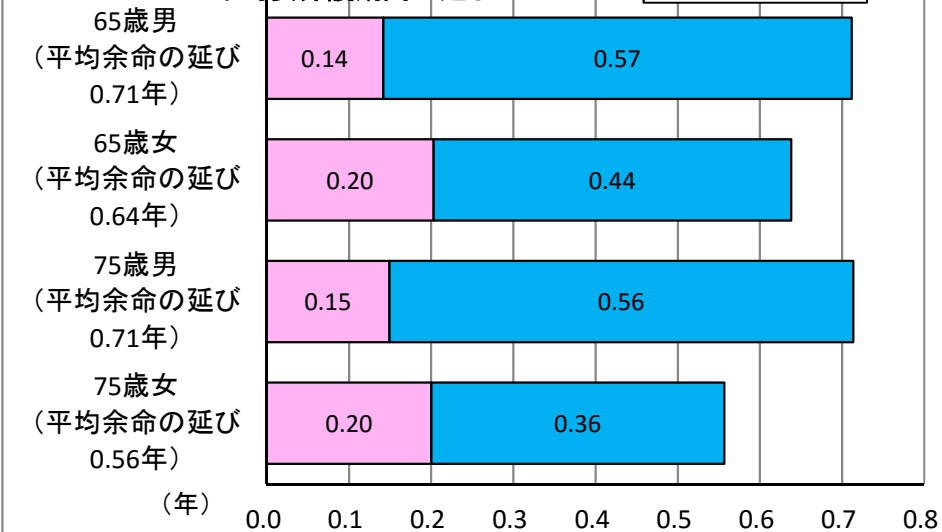
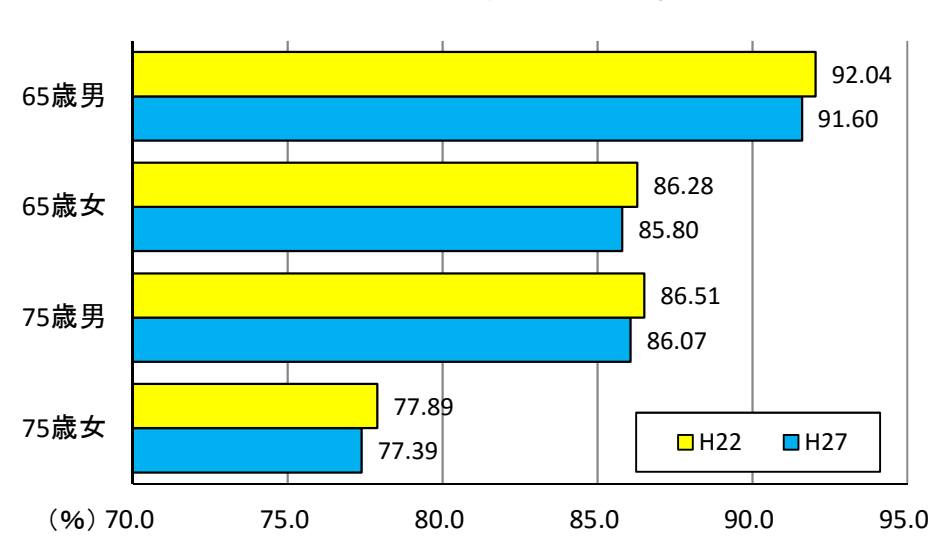


図6 平成22年と27年の平均自立期間の平均余命に対する割合



・平均自立期間の市町村間格差(最大値と最小値の差)を平成22年と平成27年で比較すると、格差が男性65歳では0.11年増加、75歳では0.14年減少した。女性では65歳で0.56年、75歳で0.46年増加した。平均要介護期間の市町村間格差は、男性は65歳、75歳ともに0.01年減少した。女性65歳は0.05年減少、75歳では0.01年増加であった。(表1、2、図1)

・千葉県の平均余命・平均自立期間・平均要介護期間は、平成22年から27年の5年間で男女とも有意に延伸している。平均自立期間の伸びは男女とも平成26年～27年にかけて一番大きかった(図2、3)。

・千葉県の5年間の平均自立期間の伸びの男女差は、65歳で0.13年、75歳で0.20年男性が大きかった。一方、5年間の平均要介護期間の伸びの男女差は、65歳、75歳ともに0.06年女性が大きかった(図4、5)。

・千葉県の平均余命の伸びに対する平均自立期間の伸びを計算すると、男性は65歳80.3%、75歳78.9%、女性では65歳68.3%、75歳64.3%となり、男女とも平均余命の伸びは平均自立期間の伸びの寄与が大きかった。(図5)

・千葉県の平均余命に対する平均自立期間の割合は、平成22年より平成27年の方が男性は65歳・75歳とも0.44%、女性は65歳0.48%、75歳0.50%減少した(図6)。この間に千葉県の高齢化率は4.2%、75歳以上の割合が2.3%上昇したことによると考えられる。平均自立期間の割合が減少することは避けられないと考えられるが、平均自立期間の伸びが平均要介護期間の伸びを下回らないことが重要であると考えられる。